

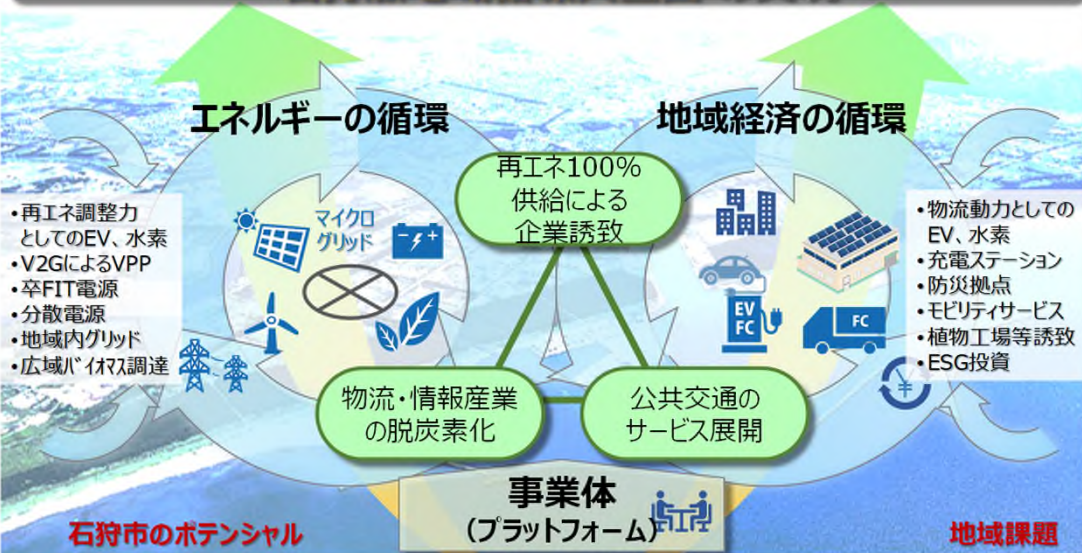
地方公共団体	北海道石狩市
所在地	北海道石狩市花川北6条1丁目30-2
地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿	「石狩版地域循環共生圏」の実現を通じて、エネルギーの循環と地域経済の循環を達成し、脱炭素・産業振興・公共サービスの拡充を図ります。
地域の現状・課題	石狩市の工業団地「石狩湾新港地域」への産業集積が進み、中長期的な温室効果ガスの削減、北海道胆振東部地震を踏まえたレジリエントなエリアの形成等、持続可能な地域づくりに向けた取組が求められているところです。
地域が持つ資源	風力をはじめとする再生可能エネルギーが豊富に賦存しており電源設置の適地であるほか、工業団地には物流や情報産業など、大規模な電力需要があります。また、札幌圏に隣接しており、都市機能を支える人材を容易に確保できます。
取組内容	再エネ活用を入り口として、「再エネ100%ゾーン」による企業誘致、再エネ発電事業者立地促進、広域でのバイオマス調達、公共交通空白地帯への新交通サービス展開、EV/FCVを活用した脱炭素化及び電力需給調整、カーボンフリー水素の活用等について取り組めます。また、これらの事業をコーディネートする地域エネルギープラットフォームの構築を図ります。
地域循環共生圏を 実践することで想定 される効果	<p>(環境)</p> <p>【二酸化炭素排出削減効果】17,862 t-CO<sub>2</sub>/年(約3,670世帯分の排出量)</p> <p>【再生可能エネルギーの利用量(電力)】26.6 GWh/年(約7,650世帯分の電力量)</p> <p>(経済)</p> <p>【地域の再生可能エネルギーの地消率】97 %</p> <p>【地域経済付加価値】56百万円</p> <p>(社会)</p> <p>【地域課題の解決】</p> <p>地域のサービス事業者設立を通し、再エネ電力100%ゾーンの創出に伴い新たな企業誘致の実現に伴い創出される従業員の雇用、北海道胆振東部地震のブラックアウトの経験を踏まえた電力等のライフラインの確保、公共交通空白地帯への新交通サービスの展開を目指します。</p>





目指す地域循環共生圏の姿（目標年度：2040）

### 脱炭素・産業振興・公共サービスの拡充 ＝ 石狩版地域循環共生圏の実現へ

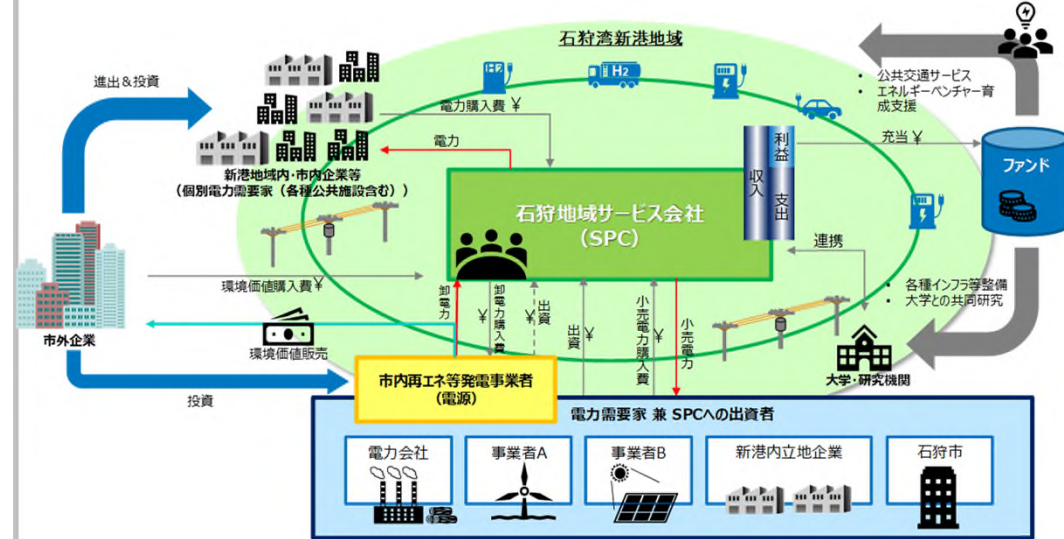


### 自治体の基礎情報

- 【規模】** 人口：58,219人(2020年4月末時点)、世帯数：27,996世帯(2020年4月末時点)  
 歳入・歳出：274億円（2019年度一般会計予算）、面積：721.9km<sup>2</sup>
- 【立地】** 札幌市の北側に隣接し、西側一帯は石狩湾に接している都市である。札幌市に近い立地を生かし、花川地区の宅地造成や石狩湾新港地域の工業団地の開発とともに発展  
 最寄駅：新千歳空港駅から36分の札幌駅、他、札幌内の主要駅が最寄り駅（札幌市内から市役所までは車で15分程度）
- 【産業構造\*】** 産業別生産額構成比 総生産：3,123億円（2013年度）  
 製造業32%、卸売・小売業13%、運輸業12%、サービス業11%、政府サービス生産者10%、建設業6%、電気・ガス・水道業2%、不動産業2%、情報通信業2%、金融・保険業1%、その他4%

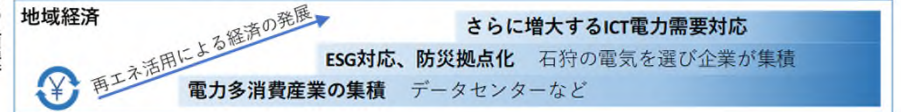
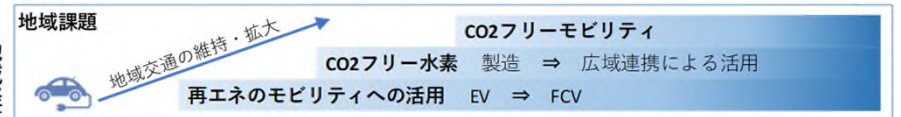
事業イメージ（目標年度：2040）

### 需給一体型ビジネスモデルの実現

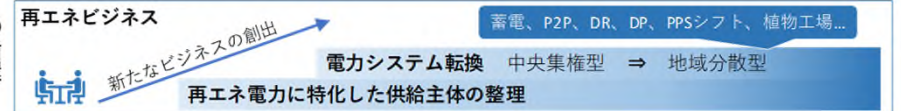
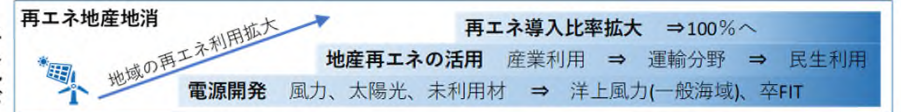


現在 → 2040

地域経済の循環



エネルギーの循環



\* 出典：「石狩市の地域経済循環分析【2013年版】 Ver2.0（環境省、価値総合研究所）」



石狩湾新港地域



石狩湾新港地域の風車



石狩湾新港は、札幌に一番近い国際貿易港として発展を続けています。



札幌駅から  
15km圏内、  
車で30分



京セラコミュニケーションシステム株式会社との連携協定



北海道連力株式会社との連携協定